



ときどきつぶやき



popurinrin

また作っちゃった。

何事も心がけ一つ。
一から気持ちを入れ替えて
新鮮な気持ちで

取り組もう・・・。

寒くなるとともに
心もぎゅっと
・・・引き締めて。

何もかも
見直していこうと

反省と愛を込めて・・・。

さようならのあいさつにて。

このページに決めた。

最近の私はまともに人の顔、見れなかった。

いつも

伏し目がちだった・・・。

目は口ほどにものをいう・・・。

話を聞くときは人の目を見て聞け・・・。

私は誰よりも人の目を見て

話を聞いていた一人だった。

目を見て話を聞くと、必ず

・・・目がしっかりと合うのだから。

あまり類を見ないその習慣は

話す人をも、ひかせてしまって

なんだか申し訳ない気がしたことも時々あった。

人の話を聞くことがなくなったとはいえ

目を見ることもないわけではない。

挨拶ひとつでさえ

・・・出来ていなかった。

それに気づき始めて

目を見て挨拶を心がけた。

そこには思いがけなく

確かな反応があった・・・。

終の住み処を見つけて旅立ちのあいさつに

訪れた一人の奥方。

目を見ているようで

いつも目外して話をしていた。

最後までまた同じ挨拶だった・・・。

心情を読み取られまいとして
でも話したくて
二言三言話したのち最後のお別れを告げた。
寂しさは十分に伝わった。
私も寄り添ってあげられなかったと
後悔したけど
そこはわかっていながらあえて
介入しなかった。

目を見ないと心はきちんと繋がれない・・・。

そう思った瞬間だった・・・。

目を見ているようで
いつもアバウトだった。
その焦点を目に変えた。

こちらからの赤い糸が向こうへ伸びていき
目を合わせると同時に
向こうからも赤い糸がスーッと一本
帰ってくる・・・。
これこそがコミュニケーションなんだと実感した。

ギラリと怒りの目を見てばかり・・・いたのだろうか。
目を見ることに疲れ果てていたのだろう。
人の心情など知るかと
のけぞっていたのかもしれない。

ここでもう一度
一人一人の目を見て
一から挨拶する私の一日が
始まっていった・・・。

それが奥方の残していった
最後のメッセージだったと知ったから・・・。

今後の日本社会

この日本は今まで安泰だった。

それはすべて戦前を生き抜いた人たちが
日本を先導してきたからだ。
バブル時代がその象徴ともいえよう。

時代を生き抜いたからこそ長寿を約束されていることも過言ではない。

戦後生まれはバブルのおこぼれが
相当あった。だから短命に生きて凝縮される。

日本が昔に戻ることは決してできない。
しかし貪欲に働く気持ちが個々にあり
それが集結されたとき

何物にもかなわない世界をも揺るがす
大きな見えない力となりえることも可能だろう。

緩い時代に生きる日本に反してそれが
可能であろうか？
もう一度見直すべき時が来たのかもしれない。
今の時代にそぐう次なる時代の底辺を
ここらあたりで作っていく始まりであろう・・・。

今後は現代版の戦後の日本が出来上がるだろう。
これからが試される。

日本がどんな日の出を見るのかを・・・。

いつもこころに

人は皆

何かに向かって生きている。

だからこそ

目標を持たなければならない・・・。

大人も子供も関係なく。

日々を過ごすというのは

そんな一コマから

成り立っている・・・。